

Title	外来語における類義語の意味分析：「支援・援助」に関する語を中心に
Sub Title	
Author	李, 睿祺
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2025
Jtitle	日本語と日本語教育 No.53 (2025. 3) ,p.75- 75
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20250300-0075

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

外来語における類義語の意味分析

—「支援・援助」に関する語を中心に—

李 睿祺

本論文は「助ける/支援する」の意味を持つ外来語「サポート」「フォロー」「ケア」「アシスト」に注目し、それぞれの意味を再確認しつつ、これらが外来語としてどのような意味を持ち、用法にはどのような使い分けがあるのかを明らかにすることを目的とした。研究の手順としては、まず、小型国語辞典から「サポート」「フォロー」「ケア」「アシスト」の語釈を抽出し、これらの外来語の意味を比較する。次に、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）から、対象となる外来語の用例を収集し、辞書における語釈を参考にしながら使用実態を明らかにし、類義語としての異同を比較した。この四つの外来語はサ変動詞として使用されることもあるので、動詞として使用される場合と名詞として使用されるに分けて検討した。その結果、「助ける/支援する」という共通の意味を持つほかに、それぞれ次のような特徴をもつことがわかった。

「サポート」は「失敗のないように補助する／失敗を補う」、「裏付ける」の意味を持ち、「会社が顧客の問題や問い合わせに対応するために知識提供を行う」の意味でも使われる。

「フォロー」については新用法として、「SNSで、ある利用者の投稿を自分のページで閲覧できるように登録すること」の語釈が見られる。英語での最も中心的な意味は「あとを追うこと」であるが、この意味が徐々に「事態の発展を見守る」と変わり、外来語としてはやがて「支援する」の意味で使われるようになり、「事態の発展を見守る」と「失敗のないように補助する」といった特徴を持つ語となった。

「ケア」は医療・福祉分野と美容・ファッション分野に多用され、使用される分野が偏っているところが特徴的である。

「アシスト」については「影響を与え、強くする」の意味も持つ。

これらを用例の出現数で比較したところ、総用例数が最も多く、日常生活に定着したと考えられるのが「ケア」と「サポート」であった。

使用される場面としては、「サポート」が他の語構成要素と結合する複合名詞であっても、「～のサポート」のような連体修飾成分をもつ名詞句であっても、形容詞・形容動詞が修飾する名詞句であっても、あらゆる分野で広く使われていた。「ケア」は主に「医療・福祉」分野と「美容・ファッション」分野で、「フォロー」は、「医療・福祉」と「行政」分野での使用が多く見られ、「スポーツ」分野における用例も少なくない。「アシスト」は用例は少ないが、「スポーツ」と「電気製品」分野に使用される傾向が見られた。